

令和7年度 学校自己評価

中津市立下郷小学校

1 学校の教育目標 「気づき 考え 行動する」

2 育成を目指す資質・能力 「言語能力の充実と自己理解・自己有用感の育成」

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評価判断基準

- A …達成率90～100%
- B …達成率70～ 89%
- C …達成率60～ 69%
- D …達成率60%未満

生きて働く知識・技能
思考力・判断力・表現力
学びに向かう力、人間性
等
の
涵
養
の
推
進

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
基本的な生活・学習習慣の確立ができる子どもの育成	①算数の「単元テスト」で70%以上達成の児童が80%以上。 ②児童アンケートの「授業が分かる」の項目で、肯定的回答80%以上。 《長期》『中津市標準学力調査』の平均正答率が全国値	学校	授業の中で「基礎的・基本的内容の定着を図る時間」を確保。	○授業者は、算数科の授業では毎時間、「キーワードを使って問題解決の見通しをもつ場」を設定する。 ○授業者は、算数科の授業では毎時間、「視点を明確にした振り返り」を書かせる。	B	◎視点を明確にした振り返りはできるようになってきた。 ◇「単元計画」を提示し、単元の目標（学習のゴール）を共有するとともに、目標を達成するための見通しをもたせることで、主体的な学習態度を育んでいく。
		家庭	あいさつをしたり、学校での出来事を話したりする時間をもつ。	○保護者は1日1回以上、「生活リズムに関わる言葉かけ」を行う。	A	◎生活リズムに関わる言葉かけを行っている保護者は100%。 ◇学校だより、学年だより、ホームページ等を通して、学校での出来事を細やかに伝えることで、話題提示を行う。
		地域	地域の子どもは地域で育てるという考えを広げ、実践する。	○地域は、児童に会った時、温かい言葉かけをする。	A	◎生活科や総合的な学習の際の、外部指導者の温かい言葉かけが児童の自己肯定感を育んでいる。 ◇地域の協力を得ながら地域人材の掘り起こしを進める。
自分の考えを持ち、進んで表現できる子どもの育成	③児童アンケートの「授業の中で、自分の考えや思ったことを発表することができる」の項目で、肯定的回答80%以上。 《長期》校外活動など、学校の枠を超えた活動で、自分の意見を述べることができる。	学校	授業を中心に集会でも「互いの考えを交流する」場を設定	○授業者は、算数科の授業では毎時間、「具体物・絵・図・表・言葉・式」のいずれかを示しながら、ペアやグループで考えを交流する場を設定する。	B	◎算数の授業では、問題解決の過程を式だけでなく、具体物や表を用いて視覚化し、理解が深まるよう指導している。 ◇交流場面を活発にする手立ての工夫を探っているところ。
		家庭	「読書活動」の推進	○保護者は、学校から毎月配信される「学校図書館だより」を活用する等して、保護者文化부가推進する「家読の日」の取組を行う。	B	◎保護者へ「図書館だより」を毎月配信し、本の紹介をすることで、家庭と協力して「家読」の取り組みを推進している。 ◎休み時間に図書室を開放し、自由に本が読める環境に戻した。
		地域	「読み聞かせ活動」の支援	○地域ボランティアは、毎週水曜日の朝の時間を活用して読み聞かせを行う。	A	◎毎週、地域の方が読み聞かせを行ってくれている。その際、子ども達に読ませたい本を選んできてくれるなど、地域も一体となって読書活動を推進してくれている。。
自他の良さに気づき、学んだことを、自己の生活に活かそうとする子どもの育成	④児童アンケートの「困っている人に気づき、声をかけたり手伝ったりした」の項目で、肯定的回答80%以上。 ⑤児童アンケートの「家や学校でみんなのために役立つことができた」の項目で、肯定的回答80%以上	学校	自己有用感を育成する取組	○担任は、自問清掃で自他の気づきを記録させ、毎月1回の自問清掃集会で振り返りをさせる。 ○担任は、人間関係づくりプログラムの一環として「構成的グループエンカウンター」を週1回、実践する。	A	◎自問清掃では、毎回、自分や仲間の頑張ったことを「自問ノート」に記入させ、それを自問清掃集会で還流しており、自己有用感を高めることに繋がっている。
		家庭	「一人一仕事」の取り組みを進める	○保護者と子どもは、「一人一仕事」に取組み、懇談の場で意見交流をする。	B	◎懇談会で家庭での様子を交流し、情報交換はできている。 ◇学校だより、学年だより、ホームページ等を活用して、家庭への働きかけを継続していく。
		地域	学校と連携した安全・安心体制の支援及び体験活動の推進	○学校支援員（CS委員含む）は、減災・防災教育の一環として、学校行事への参加を通じて、日頃から子どもや保護者との繋がりを築く。	A	◎防災学習や、学校菜園、田植えなどの勤労生産学習において、保護者や地域とのつながりを深めることができている。
在校時間の縮減	⑥在校超過勤務時間45時間以内を100%。 ⑦校務処理に充てる時間の確保のため毎水曜日の会議は1時間以内で終える	学校	校務作業に充てる時間の確保	○教頭は、「年間会議・研修計画の作成」や「ICT端末の活用」により、効率的に会議運営し、職員が校務に充てる時間を毎週確保する。	A	◎「年間会議・研修計画」を作成し、議題が重ならないよう調整している。提案時間を意識するよう指示している。 ◇今後は「40時間」を目標に取組みを推進していく。
		家庭	働き方改革に関する学校業務の共通理解と協力	○保護者は、欠席連絡は連絡システム「すぐーる」、17:30以降の問い合わせ等は留守番電話機能を活用する。	A	◎保護者へは、学校には電話回線が1本しかないので、欠席連絡は極力「すぐーる」を活用するよう、再度依頼した。 ◇行政へは、回線の増設を依頼中。
		地域		○学校運営協議会は、学校の取組を共有し、運動場の草刈りや勤労生産的行事の支援など連携可能な取組を提案・実施する。	A	◎運動場の草刈りや野菜の栽培・収穫、水田管理の支援等、連携可能な協力を依頼し、多くの協力を得ている。